

令和6年度第3回国立大学法人埼玉大学経営協議会議事要録

日 時 令和6年11月28日（木）13：30～15：00

場 所 事務局第一会議室及びMicrosoft Teams 併用

出席者 [会議室] 坂井学長、石井理事、野中理事、木崎理事、中村理事、市川理事
利根委員、平本委員、堀光委員、山名委員
[Teams] 真下委員

欠席者 萩原委員、山口委員、吉田委員

陪席者 [会議室] 小俣監事、山中監事、長澤副学長、水村人文社会科学研究科長、
宮田教養学部長、戸部教育学部長、重原理工学研究科長、若狭理学部長
[Teams] 市橋副学長、田代副学長、福島副学長、伊藤副学長、
井原経済学部長、奥井工学部長

○ 学長から、萩原委員、山口委員及び吉田委員が本会議を欠席する旨報告があった。

○ 令和6年度第2回議事要録の確認について（資料1）

令和6年度第2回国立大学法人埼玉大学経営協議会議事要録（案）の確認が行われ、承認された。

※各事項における意見等は次のとおり（☆学外委員、△学内委員等）

○ 審議事項

- 1 国立大学法人埼玉大学役員報酬規則、国立大学法人埼玉大学教職員給与規則及び国立大学法人埼玉大学教職員特定年俸制給与等規則等の一部改正について
木崎理事から、資料2に基づき、国家公務員一般職の職員の給与に関する法律等の一部改正等に伴い、所要の改正を行う旨説明があり、審議の結果、承認された。

☆ 人事院勧告に準拠せず、独自の運用をしている大学はあるのか。

△ 周囲の大学を調べると、地域手当などについては異なる対応をしている大学もあるが、基本的には準拠している大学が大半であると認識している。

- 2 令和6年度学内補正予算について

木崎理事から、資料3に基づき、令和6年度学内補正予算の概要及び年度当初予算からの主な増減要因について説明があり、審議の結果、承認された。

☆ 不動産売却による収入のうち二分の一を独立行政法人大学改革支援・学位授与機構へ納付する旨の説明があったが、収入補正予算に計上されている金額と支出補正予算に計上されている納付額が整合しないのは何故か。

△ 収入補正予算には土地、建物双方に係る売却収入が計上されているが、機構への納付が求められるのは土地に係る収入についてのみであるため、一致していない。

3 学内予算によるプロジェクト事業について

木崎理事から、資料4に基づき、令和6年度学内予算によるプロジェクト事業として、昨年度に引き続き、脱炭素化推進のための設備機器等の整備・更新等に取り組む旨説明があり、審議の結果、承認された。

○ 報告事項

1 令和8年度学部・学科再編・ダイバーシティ専攻設置について

学長から、資料5に基づき、令和8年度に予定している工学部の女子学生入学枠の設置、教養学部における専修課程の新設、及び人文社会科学研究科博士前期課程における専攻の新設に係る改組構想の概要について説明があった。

次いで、各担当部局長から、各改組計画の詳細について説明があり、種々意見交換が行われた。

☆ 理工系女子学生の育成など、ダイバーシティ社会の実現に向けて取り組まれるということで、次代に向けて大変心強く感じた。関連する話題として、私が長年審査員を務めている小中学生の作文コンクールの受賞作品について紹介したい。その中には、女子中学3年生が日本や世界の農業の未来のために「AgriTech（アグリテック）」について研究していきたいという作品や、癌で苦しむ家族を見て新薬の開発に携わりたいと願う女子小学6年生の作品があった。こうした志を持つ子供たちが、貴学で理工系女子として育つことを期待したい。

△ 理系分野に興味を持つ女子中高生も沢山いるが、学年が進むにつれて離れてしまうところに課題を感じている。理系に進んだ先のロールモデルやキャリアパスを示しつつ、女子枠を設けることでまず女子学生の母数を増やしていきたい。

☆ 高校の進路指導において、「子どもたちの学びたいこと」ではなく、「どの大学に入学させるか」ということに重きを置いた指導が行われるところにも課題があると感じており、その点へのアプローチも必要ではないか。

△ 毎年、本学と埼玉県高等学校長協会との間で意見交換の場を設けているため、そこでの議論の中でもその問題について取り上げていきたい。また、女子生徒の理系進路選択においては、保護者の理解も非常に重要だと考えており、本学で取り組んでいる「女子中高生の進路選択支援プログラム」の中で保護者を含めた理解促進を図っている。

☆ 例えば、昭和女子大学附属中学校では、山田進太郎D&I財団と連携して理工系のキャリア教育プログラムにも取り組んでおり、いわゆる女子校と呼ばれる学校では、社会や教員、保護者が持つアンコンシャス・バイアスの解消に向けて取り組み始めている。女子枠開設後、すぐには学生が集まらない可能性もあるが、めげず

に理工系女子学生の増加に向けて取り組んでいただきたい。

☆ 今回の改組構想について全国紙で大きく取り上げられたのは、学長が自ら記者会見を行ったことによるところが大きいと考えている。今後も、プレスリリースを発信するだけでなく、学長が自ら発言し情報発信する機会を設けることが望ましい。

△ 今回の記者会見については、非常に広報効果を実感している。ご提案のとおり、今後も話題性のある取組については積極的に発信していきたい。

2 JST 戦略的創造研究推進事業 ERATO への採択について

石井理事から、資料6に基づき、科学技術振興機構(JST)の戦略的創造研究推進事業総括実施型研究(ERATO)に、本学大学院理工学研究科の豊田正嗣准教授を研究総括とするプロジェクトが採択された旨の報告があった。

3 令和6年度大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業採択について

野中理事から、資料7に基づき、文部科学省の「大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業(地域等連携型)」に、本学から提案したプログラム「『地域共創ーダイバーシティ課題解決ーレジリエント社会研究』の三位一体による実践的な多文化共生教育の全学展開」が採択された旨の報告があった。

4 令和5年度計画自己評価書について

長澤副学長から、資料8に基づき、令和5年度計画の実施状況及び評価指標の達成状況について説明があった。

5 統合報告書2024について

学長から、机上配布資料に基づき、本年度の統合報告書を発行した旨の報告があった。

○ その他

1 次回日程(令和7年1月30日(木))

学長から、次回日程の開催時刻については、改めて各委員のご都合を伺いたい旨の連絡があった。

以上